

はじめに

日頃より市民の皆様はじめ関係者の方々には、豊田市矢作川研究所の調査研究活動及び運営に、多大なるご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。このたび、1年間の調査研究成果を取りまとめた「矢作川研究 No.24」を発刊することができました。これもひとえに皆様のご助力の賜と深く感謝いたします。

さて、当研究所は平成6年に策定された「豊田市矢作川環境整備計画」に掲げられた課題に対する学術研究を進めるため、“一つの川に一つの研究所”を合言葉に矢作川流域のシンクタンクとして設立されました。それから25年、四半世紀を迎えました。

これまでの道のりを眺めると、矢作川の自然環境の把握、天然アユ調査を通じた河川環境改善策の提案・実施、水源涵養林の調査、カワヒバリガイやアメリカナマズ、オオカナダモ等の外来生物の繁殖実態調査、水際・河畔林の管理方法の調査研究、水辺愛護会の活動支援、矢作川学校での自然環境学習の推進等の多くの取り組みを挙げる事ができます。河川に関わる様々な課題に対応するかたちで調査研究テーマを掲げ取り組んでまいりました。今後も、これらの調査研究を発展・進捗させるとともに、得られた研究成果の蓄積をより市民の皆様や行政、企業の社会貢献活動などの場で活用されるよう提供していく必要もあると考えております。

私事となりますが、2019年4月の所長就任以来、川の研究は自然相手であり、調査研究のためのデータを得るにも天候や水位などに左右されますし、得られたデータの分析についても、様々な要素が絡み合った現象をどう解きほぐし、どう解釈していくか、その難しさを新米所長として実感しているところです。これらを乗り越えるには関係の皆様のご支援が欠かせません。引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和2年3月

豊田市矢作川研究所 所長
酒井 斉